

第10回アカデミープレジデント会合（APM）会合概要  
Academy of Science Presidents' Meeting

日時：平成29年10月2日14時40分～16時40分

STS フォーラム（10月2～4日）期間中に開催

場所：国立京都国際会館（Room104）

主催：日本学術会議

出席者：20名（16か国19名、国際学術団体1名）

（内訳）オーストラリア、ブルガリア（2名）、台湾、フィンランド、フランス、ドイツ、ラトビア、インドネシア、インド、韓国（2名）、ポーランド、スーダン、トルコ、英国（2名）、米国、日本、AASSA

議長：花木 啓祐 日本学術会議前副会長

Prof. Dr Satryo Brodjonegoro Indonesian Academy of Sciences (AIPI)

【テーマ】

“Promotion of Transdisciplinary Science”

【概要】

冒頭、共同議長である日本学術会議の花木啓祐前国際業務担当副会長より、今回のテーマ「Promotion of Transdisciplinary Science」の選定経緯及び配布資料によるテーマの説明があった。続いて、Professor Dr. Satryo Brodjonegoro 共同議長から、SDGs の取り組みに STI が貢献することを期待したい旨が述べられた。

次に出席者による自己紹介が行われた。その後、全出席によるプレゼンが行われた。プレゼンでは、主に各国またはそれぞれの組織において Transdisciplinary Science がどのように受け止められ、または推進されているかについての発言があった。議論全体の要点は次のとおり。

1. Transdisciplinary Science の定義等

（1）”Transdisciplinary science”は1990年代以降生起された新しい考え方である。

（2）Transdisciplinary science は、”to solve the actual problems for human beings”のための手法として定義することができる。

（3）多くの場合、”Transdisciplinary science”は、”multi-disciplinary”、”multi-stakeholder collaboration”の取り組みを奨励・強化することに役立つことになる。

（4）”Transdisciplinary science”は、各分野を橋渡しする「橋」であり、「橋」を渡った後に「具体的な成果／達成」がある状態のことを意味するのではないかと。

## 2. 各国の取り組み例

- (1) スーダンの場合、Transdisciplinary science は開発手法として既に使用されている。開発課題には一般市民／大衆が参加しており、開発のプロセスの visibility は必須である。地域に関する知識、政府に対する働きかけといったさまざまな役割が必要であり、各分野から一つの課題に向けた活動が行われているが、科学者も科学的「根拠」や最新知識に基づく情報発信を行っている。
- (2) 社会の高齢化の中の認知症に対する取り組みとして、アメリカでは一般社会における”Transdisciplinary approach”が試みられはじめている。年々患者数が増大し、財政負担も大きい。2017年イタリアが主催したGサイエンス学術会議の共同声明では高齢化社会への対応策として医学、社会学、行動科学等の協働の必要性を認めている。
- (3) 日本では2011年の大地震・大津波の自然災害により、緊急事態発生時から復興、発展の過程で市民、経済、行政、医療、科学がどのような役割を果たすべきか計り知れない教訓を得た。

## 3. Transdisciplinary science を促進することを役割とする専門部署設置等について

- (1) オーストラリアでは、4つの学術領域を束ねる the Australian Council of Learned Academies の下で”Securing Australia’s Future”を実施済み。主な成果はリーダーシップの育成、アジア・大洋州という多様な社会において新しいさまざまな機会を創出することへの関心の掘り起し、などである。
- (2) ”Center for Sustainability Science : Academia Sinica”。2012年設立。農業、気候／大気汚染の監視、自然災害、公衆衛生、再生エネルギーに関するプロジェクトに資金提供。
- (3) 英王立協会は”Transdisciplinary science”を促進する政策を支援し、関連プロジェクトに資金を拠出している。賞授与による奨励も行っている。Future Earth の10年研究計画にも高い関心を有している。

## 4. その他 (“Transdisciplinary science の現状、課題等)

- (1) 定型的な Transdisciplinary science のモデルが多くの問題解決にとって有効とは限らない。SDGs の17目標の達成への取り組みにもどのような Transdisciplinary science が必要であるのか世界各国で共通認識がある訳ではない。
- (2) 最後に、Professor Dr. Satryo Brodjonegoro 共同議長から、Transdisciplinary approach は、世界や各国のさまざまな問題を解決する手段として、一般市民が取り組む手段となるよう期待せずにはいられないという旨の発言があった。

(了)